

算数科 小学校 5年

単元名「単位量あたりの大きさ」
啓林館 わくわく算数5下

単元の流れ（全11時間）

【第1次】

主な学習内容

- ◇第1時 混み具合を比べる。
- ◇第2時 人口密度について理解し、大きさを比べる。

「知識・技能」を定着させるために

- ・第1時 混み具合を実際に体験させ、身近なものにする。

「活用」の力の育成のために

- ・第2時 各都道府県やいろいろな国の人口密度について調べる機会をもつ。（社会科との関連）



【第2次】

主な学習内容

- ◇第3時 単位量あたりの大きさをもとにして、ガソリンの量と車の走る道のりの比較をする。（本時）
- ◇第4時 単位量あたりの大きさを調べて比べることが日常生活には多くあることを知る。

「知識・技能」を定着させるために

- ・第3時 求めた数値が何を表しているか明確にさせる。

「活用」の力の育成のために

- ・第4時 実際の写真を提示するなどして、実生活との関連が深められるようにする。

単元目標

- 異種の2つの量の割合で表される量について、単位量あたりで考える。また、速さについての計算をする。

単元構成の意図

本単元では、異なる2つの量の割合で表される量について、その比べ方、表し方を学習する。内容としては、「単位量あたりの大きさ」「速さ」という2つの小単元から構成されている。

「単位量あたりの大きさ」では、異なった2つの量を比較する場合、一方の大きさを単位量にそろえ、他方の大きさを比べるという考え方を、身近で具体的な題材を扱い、「単位量あたり」の考え方の有用性を実感できるよう工夫した。教科書では、混み具合を比べた後で、燃費や収穫高について学習をしていく計画になっているが、よりイメージをもちやすいようにするために、混み具合から続けて人口密度の学習を入れていくという単元構成にした。

また、「速さ」も、時間をもとにして道のりで比べるものであり、「単位量あたり」に着目する考え方の延長線上であるということ大切にしている。

体育科の短距離走や社会科の資料の読み取りなど他教科との関連も含め、単位量あたりの考え方が児童の日常生活の多くの場面で使われていることに気付かせ、生活の中でも活用できる力が身に付けられるように単元の中で意識して指導する。

【第3次】

主な学習内容

- ◇第5時 速さの意味を理解する。
- ◇第6時 速さの表し方を知り、道のりと時間から速さを求める。
- ◇第7時 速さと時間から道のりを求める。
- ◇第8時 道のりと速さから時間を求める。

「活用」の力の育成のために

- ・第5時 身の回りで時速、分速、秒速がどんなところで使われているか考えさせる。
- ・第6時 50m走や持久走などの記録から、速さを求めさせる。(体育科との関連)

「知識・技能」を定着させるために

- ・第6～8時 線分図や数直線で、速さ、時間、道のりの関係を把握させる。

【第4次】

主な学習内容

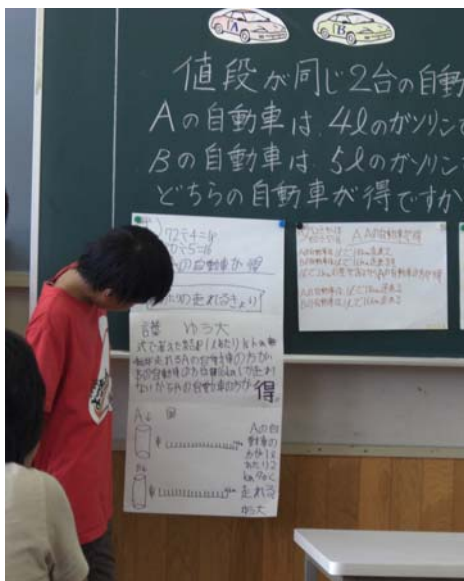
- ◇第9～10時 練習問題をする。
- ◇第11時 評価テストをする。

評価問題

CLICK

「知識・技能」を定着させるために

- ・第9～10時 いろいろな問題を解くことにより、時間、速さ、道のりを求めることに慣れさせる。



CLICK

詳しい単元指導計画はこちら



「活用」の力を育てるポイント

- ① 根拠をはっきりさせて発表できるように、理由を付けてどちらが環境によいか説明させる時間を確保する。
- ② 多様な考え方を学ばせたり、図を多用し説明させたりする。
- ③ A3用紙に筋道を立てて自分の考えを書き、聞き手に分かりやすい発表をさせる。
- ④ 実際の生活場面から、課題を設定する。

「知識・技能」定着のためのポイント

- ① 自力解決において、式と答えだけでなく、言葉や図でも表現できるような学習を確立しておく。
- ② 前時で大切だったことなどの重要なことは、本時の導入でもう一度おさえておく。
- ③ 10あたりで走れる道のりで比べる方法が、より一般化しやすいので、生活の中で使える方法を重視して指導する。
- ④ 「単位時間に進む道のり」以外の方法、例えば1kmあたりに使うガソリンの量で比べる方法を説明する時には、視覚的な効果に訴えた教具を使う。

HOME

本時の流れへ